２．2004 年 9 月 5 日　東海道沖地震津波調査

廣内 大助

2004 年 9 月 5 日に熊野灘付近で 2 回の地震が相次いで発生した。一度目の地震は 19:07 分に発生した紀伊半島沖地震(M6.9)、二度目の地震は 23:57 分に発生した東海道沖地震(M7.4)である。これら 2 度の地震に伴って、太平洋側の広い範囲に津波が襲来し、とくに紀伊半島のリアス式海岸を有する尾鷲市とその周辺地域において漁船転覆や筏流出などの被害が認められた。翌 9 月 6 日に急遽現地に赴き、津波被害の実態と住民の避難行動に関する調査を実施した。本調査は名古屋大学工学研究科の水谷法美、川崎浩司先生との共同調査として実施した。調査は 1944 年の東南海地震時に最大波高を記録した尾鷲市賀田地区と、周辺の曽根地区、梶賀地区で行った。

調査時間が少なく、十分な検分やヒアリングは実施できなかったが、被害調査の結果、津波は二度目の地震に伴うものが大きく、賀田での津波は約 2m に達し、同地区では漁船の転覆・沈没が 6 隻に及んだ。また早田や九鬼では、津波による浸水も確認され、早田では最大 2.8m の津波が襲来したとされる（東大調べ）。

また地震直後の避難行動について、ヒアリングした結果、まったく避難しなかった住民が多数おり、とりあえず様子をみたとの回答であった。賀田地区は東南海地震時の津波によっても大きな被害が出た地域である。しかし本当に被災するかもしれないと切に感じている住民は意外にも少ないという実態が明らかになった。（第３章の新聞取材に関連記事）

津波で沈没し引き上げられた漁船。鉄柵がひしゃげている様子がわかる（川崎浩司撮影）